

令和6年度 「組織運営自己点検・自己評価結果」の要約

① 自校評価 (昨年度) ②学校関係者評価委員 (昨年度)

(5段階評価)

大項目	評価	評価および次年度に向けた課題
I 学校経営 (4項目)	① 4.08 (4.13) ② 4.50 (4.25)	<p>今年度は新カリキュラムが1クール終了することができた。今年度も職員全員が自己点検・自己評価やカリキュラムポリシーの中間・最終評価を実施することで、目標を意識し改善しながら取り組むことができた。また学生がディプロマポリシーの評価を3回/年実施することで自己の達成度を確認し、課題を持ち取り組むことができていた。次年度も学生、教職員が共にディプロマポリシーを意識しながら取り組めるように機会を継続していく。</p> <p>また各会議は計画通り実施し、自己点検・自己評価の実施結果から外部委員の意見を基に組織運営を修正しながら実施できた。次年度も適時、評価修正しながら柔軟な学校運営を行っていく。</p>
II 教育課程・ 教育活動 (13項目)	① 4.03 (3.84) ② 4.46 (4.08)	<p>今年度は新カリキュラムが3年目となり、新設科目や臨地実習について評価し、改善しながら取り組むことができた。授業の開講時には講義要綱を用いて、科目の位置づけや目指すディプロマポリシーの確認をすることで学生、教員共にディプロマポリシーを意識することができていた。授業ではアクティブラーニングで学生同士学び合う授業形態を多く取り入れることで、協働する力や探究する力、またプレゼンテーション力の向上に繋がっていた。</p> <p>すべての臨地実習の評価はループリックを活用しており、今年度後期より評価指標をループリックに示すことで求められている内容の理解となり、教員と指導者が同じ視点で見ることができるようになったため、指導と評価の一体化に繋がっていた。今年度より学生にも評価指標を示すことで学生と他者評価のズレがなくなり、評価指標を示すことは学生自身が目指すことのわかりやすさに繋がっていたと考える。今後も学生自身で評価、改善しながら実習を行えるようにループリックを学生が活用しやすいものにしていきたい。</p> <p>看護実践力に関しては、各領域の授業でアセスメント力の強化をしているが、根拠となる知識の活用が不十分な学生が多いことが課題である。今後もアセスメント力強化のための各領域で連携した教授方法などの検討が必要であると考える。また実習での看護実践力を段階的に学ぶしくみになっているかを検討しており、次年度に向けて学生が段階的に学びを継続しながら発展的に学んでいけるように整えていきたい。</p>
III 入学・卒業 ・就職・進学 (5項目)	① 3.75 (3.98) ② 4.00 (4.40)	<p>入学生の確保については、推薦・一般入試併せ志願者数は103名、受験者数は99名であった。高校訪問を28校、進路説明会やガイダンスにも14件参加した。オープンキャンパスや学校見学会では本校の強みを強調して伝えた。これらのことことが受験者確保につながったと考える。一般入試の日程が12月であることは大学受験を考えている受験生にとって受験しやすい日程であることが今年度の結果からも考えられる。今後も入学生の確保に向けて、選ばれる学校になるように本校のPR活動を充実させていきたい。</p> <p>就職に関しては、進学は37名が第1希望の就職先に内定し、1名が保健師を目指し大学への編入試験を合格した。関連病院への就職は28/40名であった。例年と比べて関連3病院への就職率が低かった。今後も臨地実習や講義等で、関連病院の方々に直にご指導を頂き協力を得ることで、学生の具体的な就職先選びを支援していく。</p>
IV 学生生活 への支援 (4項目)	① 4.06 (3.71) ② 4.50 (4.5)	<p>学習支援体制の強化については、1・2年次は学習会を定期的に開催し、学生同士で学び合うことができた。次年度も学年の特性に合わせた継続した学習支援を検討していきたい。3年次は集団より個々で取り組むことを好む学年であり、学生に合わせた支援を実施した。第114回看護師国家試験の結果は100%であった。次年度も低学年から継続した学習に取り組む姿勢を身につけるができるように、低学年の学習支援を強化していく。</p> <p>学生の倫理的態度の育成に関しては、臨地実習の場で「看護者の倫理綱領」</p>

		を基に統一した指導を行った。学校でもクラスでの活動、コミュニティの行事や係などを通して、責任ある行動を意識する機会をもてた。次年度もできていることは承認しながら、他者への影響を考えた言動をとれるように支援していきたい。感染症の予防対策のワクチン接種は計画的に実施できない学生がおり、指導を要した。次年度は入学前から計画的に実施できるように変更した。
V 管理運営 ・財政 (3項目)	① 3.94 (3.65) ② 4.00 (4.00)	教育設備や備品に関する予算執行は、計画通り実施した。教育設備や備品は校内演習やシミュレーション教育で有効活用することができた。今後も臨地でのリアルな状況を作り学習できるように、教育設備や備品を活用し授業方法の工夫を行っていく。 今年度は個人情報保護に関するガイドラインを作成した。文書保存ガイドラインの作成と保管方法の検討は重ねており、作成に向けて取り組んだ。次年度は文書保存ガイドライン作成後、文書の整理を行っていく。
VI 施設設備 (5項目)	① 3.86 (3.69) ② 4.00 (4.00)	今年度も防災意識を高めるために、本校の地震被害想定を含めた特別講義を行った。学生へは安全に帰宅するためのポートフォリオを同じ居住地の学生が集まり、顔合わせを行い、災害時を意識する機会を設けた。いつ起こるかわからない災害時に備え、学生のポートフォリオ作成の活動は継続していく。 また学校の校舎建物等については、計画的に保守点検を行い必要な修繕を行った。今後は、経年劣化による部品の交換や保守点検を引き続き計画的に実施していく。
VII 教職員の育成 (4項目)	① 4.11 (3.62) ② 4.50 (4.25)	今年度も学会や研修へは計画的に参加でき、報告は教員会議での伝達、復命書の回覧もタイムリーに実施でき、職員間で共有することができた。 教員と学生がCPの評価を行うことで、課題を明確にし、改善しながら取り組むことができた。また、教員の授業力を養うために委員会活動により授業方法の知識が得られた。次年度も委員会活動を継続し、教員同士で学ぶ姿勢を継続していきたい。
VIII 広報・地域活動 (3項目)	① 4.43 (4.45) ② 5.00 (5.00)	今年度も広報委員が中心となり、学校生活の様子などをホームページにタイムリーに掲載することができた。今年度の桂花祭は制限なく外部を受け入れ、地域の方へ看護学校を知ってもらう機会となった。授業でのフィールドワークでは地域の方と触れ合う機会となり、また地域から要請のある出前講座に教員の派遣を行った。次年度も学校のPR活動を継続していくと共に、地域の方と接する機会を大切にし、地域の中の看護学校として地域への貢献を行っていきたい。

令和6年度 組織運営自己点検・自己評価結果

■学内 ■委員

